

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語国文Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0123		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	特定の教科書は用いない。適宜,レジュメ等を配布する。原稿用紙等は講義中に配布する。				
担当教員	畑 恵里子				
到達目標					
技術者に必要な人間性,国際性,協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。図書館やインターネットの適切な検索方法や利用方法を習得し,信頼できる情報を識別できる。情報を収集し,問題を適切に分析した上で,4000字程度のレポートを作成できる。また,他者のプレゼンテーションやレポートに対して,建設的な意見を表明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し,信頼できる情報を識別できる。		図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し,信頼できる情報を識別できると認められる。		図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し,信頼できる情報を識別できない。
評価項目2	情報を公平かつ適切に収集し,整理できる。		情報を公平かつ適切に収集し,整理できると認められる。		情報を公平かつ適切に収集し,整理できない。
評価項目3	他者のプレゼンテーションやレポートに対して,建設的な意見を表明できる。		他者のプレゼンテーションやレポートに対して,建設的な意見を表明できると認められる。		他者のプレゼンテーションやレポートに対して,建設的な意見を表明できない。
評価項目4	問題を適切に分析した上で,4000字程度のレポートを作成できる。		問題を適切に分析した上で,4000字程度のレポートを作成できると認められる。		問題を適切に分析した上で,4000字程度のレポートを作成できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般社会で求められる日本語運用能力の向上を目的とする。話し言葉と書き言葉との相違,係り受け,略語等,学生が陥りがちな語彙を修正できるよう指導し,基礎的なアカデミックスキルの向上を目指す。ピア学習を念頭に,学生間の相互学習や相互添削を導入する。各自自由にテーマを定め,情報を収集し,口頭発表の技術を学ぶ。かつ,レポート執筆に必要な知識を習得する。				
授業の進め方・方法	演習形式を中心に授業を進める。いずれも学生間の相互学習を主とする。				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】 定期試験 (50%),小論文 (20%),提出課題 (30%) 等による総合評価とする。 日本漢字能力検定・日本語検定等も推奨し,級に応じて加点对象とする (上限10%)。 上記の到達目標の到達度を評価基準とする。</p> <p>【履修上の注意】 配布資料は毎回全て持参する。 辞書は毎回必携とする (紙媒体・電子媒体を問わない)。</p> <p>【定期試験の実施方法】 前期・後期ともに,定期試験 (時事問題,社会問題,難解語句,同音異義語,同訓異義語,類義語等) の他,小論文,提出課題を総合して評価する。 特に後期は,定期試験の他,口頭発表,質疑内容,レポート,提出課題を総合して評価する。</p> <p>【学習方法】 社会への関心と疑問とを持つように心がける。 新聞を読む習慣を身に付ける。</p> <p>【キーワード】 履歴書 (C.V.), 自己紹介文 (Self-introduction sentence), レポート (Reports), 小論文 (Short papers), 文章技術 (Sentence skills)</p> <p>【学生へのメッセージ】 「国語国文Ⅱ」を受講する学生は,前期科目「国語国文Ⅰ」を受講していることが望ましいです。 知識や情報に踊らされず,良い意味で,批判的に社会へ疑問を持ち続けてください。 この講義では,ほぼ毎回,執筆することになるため,みなさんの能動的な姿勢が特に求められます。</p> <p>【科目の位置付け】 1. 先行して履修すべき科目 古文Ⅰ,Ⅱ 現代文Ⅰ,Ⅱ 総合国語ⅠA,ⅠB 総合国語ⅡA,ⅡB 2. 後で履修する関連科目 なし 3. 同時に履修する関連科目 語学関係</p> <p>【連絡先】 研究室 B棟3階 (B-301) 内線電話 8904 e-mail: e.hata@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@にしてください)</p>				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明,インターネットの効果的な活用方法		図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し,信頼できる情報を識別できる。
		2週	調査テーマの確定と問題分析		図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し,信頼できる情報を識別できる。 情報を公平かつ適切に収集し,整理できる。 他者のプレゼンテーションやレポートに対して,建設的な意見を表明できる。

4thQ	3週	図書館利用方法の習得	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	4週	検索サイト活用 (CiNii, 国立国会図書館HP, 新聞社データベース等)	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	5週	問題点の整理方法	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	6週	文章構成と章立て	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	7週	中間報告	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	8週	中間試験	
	9週	効果的な紙面構成 (グラフ, レイアウト等)	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	10週	研究発表と質疑 1	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	11週	研究発表と質疑 2	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	12週	研究発表と質疑 3	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	13週	研究発表と質疑 4	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。
	14週	レポート執筆	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。問題を適切に分析した上で、4000字程度のレポートを作成できる。
	15週	相互添削と清書	図書館やインターネットの適切な利用方法を習得し、信頼できる情報を識別できる。情報を公平かつ適切に収集し、整理できる。他者のプレゼンテーションやレポートに対して、建設的な意見を表明できる。問題を適切に分析した上で、4000字程度のレポートを作成できる。
	16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	後1
			代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	
			文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	後1
			文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	3	
			鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章 (詩歌、小説など) の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
			読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	後1

			現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	後1
			代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3	
			古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	
			代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	
			教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	
			情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	後6,後7,後10,後11,後12,後13,後15
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0